

【特別養護老人ホーム繋松苑拠点区分】

【第 1 種社会福祉事業】

・特別養護老人ホーム繋松苑事業

事業目標	事業方針	評価
「サービスの質の向上」に向け、多職種連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> ① 管理的、画一的な支援にならないよう、多職種で話し合いながら、施設サービス計画に基づき個人に即した援助に努める。 ② 職員の業務分担・役割を明確にし、組織として無駄をなくし業務の効率化を図る。 ③ 感染症や災害が発生した場合に備え、業務が継続できるようBCP（事業継続計画）を基にした研修・訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① LIFE のデータを基にカンファレンスで話し合い、個人に即した援助に繋げることができた。 ② 業務分担・役割を明確にすることが出来ず、効率化に結び付けられなかった。 ③ 災害および感染症に対する訓練等は実施できたが、BCP（事業継続計画）が不完全で連動するまでに至らなかった。
地域活動に積極的にかかわり、地域の一員としての役割を果たす	<ul style="list-style-type: none"> ① コロナ禍において、地域にどのような形で貢献・活動を継続できるか調整・検討していく。 ② 家族会と施設で連携し、地域福祉の推進及び施設の活性化を目指す。 ③ 福祉人材育成のために感染予防対策を徹底しながら実習生を受け入れ、施設の理解を深めてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 例年通り早朝ごみ拾いに参加したが、離職による職員数の減少や施設内での感染拡大等により地域貢献活動の検討ができなかった。 ② 上記理由により家族会との連携も思うようにならず、施設の活性化に繋がらなかった。 ③ 専門学校と大学の生徒の受入れを行い、福祉人材の育成に努めることができた。
職員が安心して安全に働くことのできる職場環境の維持・向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ① 心身の健康を保持するため、「健康診断」と「ストレスチェック」、「腰痛体操」等を実施し、労働疾病の予防を行う。 ② 研修を通じてハラスメントへの理解・防止に努める。また、入所者やその家族からのハラスメントに対しても、方針の明確化および周知を図る。 ③ 安全衛生委員会を中心に、高齢の職員が働くうえでの課題や問題を検討し、エイジフレンドリーを重視した職場環境づくりや労働災害防止のための健康づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 腰痛を原因とした休業が 1 件発生したが、「健康診断」等計画通り実施し労働疾病予防に取り組むことができた。 ② オンラインでの外部研修に参加し、書面で他の職員への周知を図った。入所者等からのハラスメントに対しては、方針の明確化を図るまでに至らなかった。 ③ 安全衛生委員会において職場環境の問題等について話し合い、福祉用具の導入等に繋ぐことができた。

(1) 入所者の確保への取り組み/要介護状況

入所者定員数（90名）の維持確保に取り組んだ結果、月平均 89.6 名の実績を得た。

入所者の要介護の状況

定員：90名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
延べ入所者数	要介護2	30	31	60	62	62	60	62	60	62	62	58	62	671	55.9
	要介護3	450	497	480	496	496	452	491	496	527	465	435	445	5,730	477.5
	要介護4	1,326	1,393	1,316	1,396	1,444	1,380	1,412	1,410	1,457	1,457	1,363	1,475	16,829	1,402.4
	要介護5	823	837	827	837	782	799	801	720	744	806	750	779	9,505	792.1
	計	2,629	2,758	2,683	2,791	2,784	2,691	2,766	2,686	2,790	2,790	2,606	2,761	32,735	2,727.9
	前年度	2,677	2,790	2,677	2,787	2,787	2,699	2,784	2,672	2,748	2,709	2,508	2,792	32,630	2,719.2
	平均介護度	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1		4.1

(2) 入退所の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
入所	3	4	2	1	4	1	3	2	1	0	0	5	26	2.2
退所	5	2	1	2	3	1	5	0	1	0	1	4	25	2.1

(主な入所理由) 病院や介護老人保健施設等から退院を勧められたが、在宅生活が困難、在宅サービスを利用し自宅で暮らしてきたが、本人の ADL の低下や主介護者の高齢化等で、在宅サービスの継続が難しくなってきたため

(主な退所理由) 入院中の死亡退所、入院期間が3か月以上になるため、医療的ケアが優先されるため

(3) 提供サービス充実への取り組み

施設理念を念頭に、入所者の日常生活の自立に向けたサービス計画を作成し、入所者の安心と満足度の充実に目指し多職種で連携し以下の支援に努めた。

① 食事サービス

○管理栄養士による管理の下、適時、適温、季節感を味わえる食事を提供できた。行事食やおやつは一手間加えることで概ね好評だった。

② 入浴サービス

○3階フロアにシャワーバスが設置されたことで、フロア毎での入浴が可能となり業務の効率化にもつながった。

③ 生活支援サービス

○生活の質の向上と自立支援を意識し、可能な限り自己決定ができるよう、個々の状況に応じた福祉機器を用意しサービス計画に沿いながら支援することが出来た。

④ 緊急時の対応

○協力病院と連携し緊急時に対応できる体制整備は出来ているが、医療ニーズを必要とする方が増えている。可能な限り施設で見てほしいというニーズに対しての対応が課題として残った。

⑤ 各種生活相談

○健康相談や日常生活などに関する相談には、嘱託医も含めた多職種で対応できる体制を整えることができた。

⑥ 娯楽行事等の実施

○新型コロナの影響で計画通り行えず、行事自体を中止せざるを得なかったケースもあったが、感染対策に努めながら可能な範囲で実施できた。

(年間行事)

施設行事(全体)

実施月	行事名	内 容
4月	お花見ドライブ	ユニット毎に近隣のお花見スポットへドライブに出かけ、気分転換を図ることができた。
8月	繋夏祭	スイカ割りや「さんさ踊り」はユニット毎での実施としたが、抽選会や屋台等、家族会役員等の協力を得て開催できた。
9月	長寿を祝う会	前日の写真撮影、当日の式典と年祝いの方を中心に和やかに行うことができた。お弁当での抽選も好評だった。
10月	外出ドライブ	入所者の意向に沿って、ユニット毎に絵画の個展や粟石の「松ぼっくり」等にドライブに出掛けた。
	自衛消防訓練	日中の火災を想定し、初期消火・通報・避難の訓練を行った。
11月	芸術祭	4階展望室を会場に個人作品やユニット作品を展示。約1か月展示し、急ぐこともなく何度も見に行く方もおり好評だった。
12月	クリスマス大忘年会	地域交流室を会場に2部制で実施。職員の歌や余興に入所者も大いに盛り上がり楽しんだ。協賛のケーキも非常に好評だった。
1月	書道教室(各ユニット)	感染対策をしながら書初めを行った。
	遊びクラブ(各ユニット)	節分行事に向けて装飾作りを行った。
2月	節分行事	鬼役と福の神役の職員がフロアを回り、豆まきと記念品を贈った。
3月	ひな祭り	ひな人形を飾り期間中、鑑賞した。

5月26日に新型コロナウイルス感染者が確認される。その後、感染者が増加したため、5月と6月の予定行事は中止した。

(4) 地域と交流促進

ボランティアとの親交や、地域との交流促進への取り組み

実施月	団体名	内容
8月	北日本医療福祉専門学校	実習受け入れ(2名)・・・8月23日～9月26日
	盛岡大学	実習受け入れ(2名)・・・8月28日～9月8日
9月	つなぎ町内会	敬老会出席(施設長)
10月	つなぎ町内会	早朝ごみ拾い奉仕活動への参加
1月	つなぎ町内会	新年交賀会・二十歳を祝う会参加
	盛岡つなぎ温泉観光協会	新年会参加
2月	北日本医療福祉専門学校	研究発表会参加

(5) 研修報告

施設内研修

実施月	研修名	参加人数
4月	新入職員オリエンテーション	3名
	介護職員(ユニットリーダー)研修	10名
5月	介護職員(ユニットサブリーダー)研修 ※資料提供	10名
6月	介護職員研修 ※資料提供	9名
	感染対策(ガウンテクニック)訓練	4名
	感染防止研修(ガウンテクニック動画視聴)	47名
7月	介護職員(一般職Ⅰ)研修	10名
	口腔ケア対策委員会 テーマ:「口腔ケアを理解する」	4名
8月	介護職員(一般職Ⅱ)研修	9名
	事故対策委員会 SDS 内部研修 テーマ:「移乗方法」と「事故報告の対応」	9名
9月	新人職員フォローアップ研修	2名
	感染対策(ガウンテクニック)訓練	4名
	排泄委員会 SDS 内部研修 テーマ:「陰部洗浄について」 ※講師:(株)大王製紙アドバイザー 菅原氏	12名
10月	拘束廃止・高齢者虐待防止推進委員会内部研修「高齢者虐待を防ぐために」	8名
	介護職員内部研修(リーダー)	10名
11月	介護職員内部研修(サブリーダー)	9名
	感染防止・褥瘡対策委員会内部研修 「褥瘡防止におけるポジショニング」演習	12名
	安全衛生委員会「腰痛予防について」 ※資料を提供しアンケート実施	60名
12月	介護職員研修(1)	9名
	痰吸引・胃ろう対策委員会内部研修「経管栄養と吸引実施について」	11名
1月	事故対策委員会 SDS 内部研修「移乗方法の確認と福祉用具の使用方法」	9名
	介護職員研修(2)	4名
2月	介護職員研修(3)	9名
	排泄委員会 SDS 内部研修「コンチネンスケア発表」	9名
3月	介護職員研修(新人職員)	2名
	拘束廃止・高齢者虐待委員会 SDS 内部研修「高齢者虐待防止について」	20名
	介護職員研修(パート職員)	2名

施設外研修

実施月	研修名	主催者	参加人数
5月	第33回いわて摂食嚥下リハビリテーション研究会	いわて摂食嚥下リハビリテーション研究会	1名
6月	研修担当者交流会	いわてユニットケア研究会	1名
	社会福祉研修「虐待防止研修会(基礎編)」	(社福)岩手県社会福祉事業団	1名
	短期専門講習 「不適切ケアの理解と虐待予防」	(公財)介護労働安定センター	1名
	令和5年度給食従事者研修会	盛岡市保健所	1名
7月	キャリアパス対応生涯研修(リーダー編)	(社福)岩手県社会福祉事業団	1名
	入浴施設衛生管理セミナー	(株)アイシーシー・sp サポート	1名

7月	レクリエーション活動	(公財)介護労働安定センター	1名
9月	地域リハビリテーション関係職員研修会	いわてリハビリテーションセンター	1名
	リスクマネジメント研修(実践編)	(社福)岩手県社会福祉事業団	1名
	VR 認知症体験会	(一社)岩手県介護福祉士会	1名
	社会福祉法人経営サポートセミナー	岩手県保健福祉部	1名
	虐待防止研修(応用編) ※オンライン研修	(社福)岩手県社会福祉事業団	1名
10月	認知症介護実践リーダー研修①②	いきいき岩手支援財団	1名
	介護福祉士実習指導者講習会	岩手県介護福祉士会	1名
	医療的ケア研修	岩手県社会福祉協議会	1名
	認知症介護実践者②	いきいき岩手支援財団	1名
11月	認知症介護実践者③	いきいき岩手支援財団	1名
	権利擁護推進員養成研修	いきいき岩手支援財団	1名
	いわての介護施設職員研修会	岩手県社会福祉協議会	1名
12月	認知症介護実践リーダー研修③	いきいき岩手支援財団	1名
1月	介護職種の技能実習指導員講習	岩手県介護福祉士会	1名
	エルダー・メンター制度導入研修会 ※オンライン研修	岩手県社会福祉協議会	1名
	令和5年度(第36回)職員研究大会	中央ブロック高齢者福祉協議会	2名
	介護事業所におけるハラスメント対策 ※オンライン研修	(公財)介護労働安定センター	1名
2月	介護報酬改定セミナー2024	(公財)介護労働安定センター	2名

(6) 苦情 … 2件

内容	職員の対応に関する苦情
苦情概要	<p>11月6日午前、入所者の娘から以下の内容で生活相談員へ電話が入る。</p> <p>11月3日に入所者の孫とひ孫が必要物品を施設に届けたが、対応した職員の話聞く態度等(家族の話を否定し、職員が伝えたいことだけを話すように感じた)が受け入れがたいものだった。「施設には行きたくない」と孫が話している。今後、電話や来苑時の家族対応は生活相談員にお願いしたい。</p>
施設から家族	<p>娘に謝罪した後、同日孫へも生活相談員から謝罪の連絡を入れる。9日に娘と孫が施設に来た際に施設長と介護係長、生活相談員で謝罪する。今後の対応等説明すると納得された様子だった。</p>

内容	職員からの連絡に関する苦情
苦情概要	<p>3月28日午前10時頃、利用者の娘から以下の内容で生活相談員へ電話が入る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニット職員から定期的におやつを依頼される。先日は施設での様子等の話もなく、おやつだけ頼まれた。 誕生日の2日前に電話があり、おやつを依頼された。その時に「面会は出来ないが、お誕生日なので宜しく申し上げます」と言われた。兄弟で積み立て支払いをしている状況であり、今までプレゼントを贈ったことはなかったが、今回はお花を贈った。 自分が(娘)が体調を崩したりすれば対応できなくなるかもと不安になる。物を頼むだけでなく、様子を伝える等の配慮が欲しいし、相手の思いを汲み取れるような職員から電話いただきたい。

施設から 家族	4月3日に生活相談員から娘へ連絡し、配慮が足りなかった事等を謝罪する。娘からは、「職員の方の口調から母(利用者)とは親しいと感じてはいたが…確認頂きありがとうございました。これからは面会時の差し入れや郵送したいと思います。」と返事いただく。
------------	--

(7) 身体拘束 … 0件

(8) 事故報告 … 6件

内容	右大腿骨頸部骨折
事故概要	8月14日早朝、居室からトイレへ向かう途中にリビングで転倒する。午前中に病院受診し上記診断後、施設に戻る。年齢(75歳)などを考慮し別の病院での手術を紹介されるが、手術日が決定するまで居室で安静に過ごした後、21日に入院となった。 ※8月24日に手術。9月12日に病院内で転倒し右大腿骨頸部(手術箇所より下の位置)を骨折。
施設から 家族	娘と連絡がとれず病院受診後の報告となる。21日に手術のため病院で娘と待ち合わせ、詳細やその後の様子など説明。「通院対応等ありがとうございます。ご迷惑をお掛けしました」とのこと。

内容	左大腿骨頸部骨折
事故概要	8月20日夕食前、配薬のため訪室すると、ベッド脇に左側臥位の状態で倒れているところを発見する。「ベッドから箆笥までアルバムを運ぼうとして転倒した。」とのこと。腫れ等確認できなかったが、徐々に痛みが強くなり翌日、病院受診する。上記診断後、ベッド上で絶対安静の指示が出され施設に戻る。
施設から 家族	事故翌日、病院受診前に息子へ発見時の様子とその後の経過、病院受診することを連絡。「了解しました。宜しく願います」とのこと。

内容	右手第5指基節骨折
事故概要	9月4日、朝食時にリビングで右手第4指と5指の付け根付近の皮下出血に職員が気付く。時間の経過と共に、徐々に腫れと皮下出血の範囲が広がってきたため、病院受診する。上記診断後、患部を固定し施設に戻る。 ※11日再受診。レントゲン検査の結果、ズレはないが骨粗鬆症のため、シーネ固定は1ヶ月間継続指示が出る。
施設から 家族	病院受診後、義娘へ今後の予定(7日後再受診)等も含め連絡する。「ご対応ありがとうございます。」とのこと。翌々日に面会に来られた際、改めて報告する。

内容	左大腿骨頸部骨折
事故概要	11月22日15時40分頃、リビングで車いすから転落。痛みはないが、左肘に表皮剥離みられフィルム保護する。徐々に左鼠径部の痛みが出始め11月24日病院受診。レントゲン検査行すが、はっきりしないこともあり12月8日再受診指示。結果、左大腿骨頸部骨折の診断を受ける。
施設から 家族	事故当日と通院日に、家族へ施設から連絡を入れ、通院日には病院に同行された。医師から直接説明を受けた事もあり、安心されたようだった。

内容	左大腿骨転子下部骨折
事故概要	12月10日15時45分頃、リビングで車いすから転落。直後は膝や腰の痛みの訴えがあったが、居室へ戻ってからは「どこも痛くない。」と話し、夜間帯も含め、その後はトイレへ行くなど変わりなく過ごされる。翌朝、痛みが出てきたため病院受診し、左大腿骨転子下部骨折の診断を受ける。
施設から家族	事故当日と通院日に施設から家族へ連絡を入れる。12月28日に居室で面会され、本人の様子を見て「安心しました。」と話された。

内容	右手首骨折、左大腿骨頸部部骨折
事故概要	2月1日5時頃トイレ内で転倒。職員は協力ユニットの利用者対応中で、トイレにいることを認識していなかった。倒れた音で駆け付けると、洗面台前に倒れており、右腕の強い痛みを訴える。午前中に病院受診し、右手首骨折と左大腿骨頸部部骨折の診断を受ける。 ※手術目的で他の病院を紹介され2月2日受診。2月5日に入院し3月9日手術、3月21日退院し施設に戻る。
施設から家族	事故当日に施設から家族へ連絡を入れ病院で待ち合わせる。自立動作中の転倒だったこともあり、家族からは「ご迷惑をお掛けしました。」と話された。

【第2種社会福祉事業】

・繋松苑指定短期入所生活介護事業

(1) 短期入所事業の目標への取り組み

定員 10 名に対し目標利用者を一日平均 10 名に設定し活動した結果平均 8 名/日の実績を得た。

(2) 短期入所者の利用状況

定員：10名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
延 べ 利 用 者 数	要支援1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.4
	要支援2	13	13	19	23	24	32	6	8	11	6	10	6	171	14.3
	要介護1	43	35	40	54	52	47	38	20	26	25	22	23	425	35.4
	要介護2	80	73	29	41	92	64	71	61	64	75	62	88	800	66.7
	要介護3	48	51	49	29	26	17	38	57	80	59	94	66	614	51.2
	要介護4	28	25	25	32	46	61	48	44	68	43	72	52	544	45.3
	要介護5	22	57	46	47	38	33	37	14	21	26	26	14	381	31.8
	計	234	254	208	231	278	254	238	204	270	234	286	249	2,940	245.0
	前年度	251	263	245	274	265	204	272	275	196	211	244	253	2,953	246.1
	平均介護度	2.5	2.8	2.8	2.6	2.5	2.5	2.8	2.8	2.9	2.8	3.0	2.7		2.7

入院の状況（(空床利用)短期入所生活介護）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
入院日数	132	114	105	164	128	140	108	4	69	131	129	117	1341	111.8
短期利用日数	0	1	0	0	6	1	2	0	2	0	8	0	20	1.7

(主な利用理由) 家族の負担軽減、温泉に入れる、家族のリフレッシュを目的、特養の入所待ち

(3) 提供サービス充実への取り組み

事業目標	事業方針	評価
在宅生活継続と自立の支援	① 利用者の在宅生活を尊重し、自宅での自立した生活が無理なく継続出来るように支援を行う。 ② 在宅における介護者の介護力の維持を図るよう連携していく。	① 利用される都度、自宅での様子や体調などを聞き取り、無理なくサービス利用に繋げることができた。 ② 利用中の様子などについて、家族や居宅介護支援専門員に情報提供し、自宅での生活が継続できるよう支援できた。
他者との交流にて楽しみを見出すことができるような支援	他の利用者との触れ合いの中で、新たな趣味活動等を行うことにより、明日への楽しみを見出すことができる支援を行う。	毎日の日課で行う体操やレクリエーションなどを通して、他者と交流を持ち、また利用してみたいと思うような支援ができた。

(年間行事)
繫松苑と同じ

(4) 苦情 … 0件

(5) 身体拘束 … 0件

(6) 事故報告 … 1件

内容	左橈骨骨折
事故概要	5月8日早朝、起床の声掛けで訪室するとシルバーカーがタンスの前に横倒しになっていた。利用者本人はベッドに座っており「転んだ。」と話す。痛みはないが左肘に皮下出血、左膝に表皮剥離を確認する。当日は特に変わりなく過ごす。 翌日の午後になり痛みが出始めたため病院受診し、上記の通り診断され事業所へ戻る。
施設から 家族	家族へは事故当日に、事故概要と経過観察中であることを連絡する。翌日、痛みがでたため受診したい旨を連絡すると、受診対応の依頼がり病院受診し、上記診断を受けた。 5月8日までの利用予定であったが、自宅では看られないということで6月4日まで利用延長となり、この期間事業所で通院の送迎対応をする。転倒予防策としてセンサーマットを設置したことを説明し了承された。その後も定期的にサービスを利用している。